

令和3(2021)年度 江戸川大学 自己点検・評価委員会 活動記録

ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づく「大学教育の質向上」を担保するためには、自己点検・評価委員会を中心として行う「内部質保証」が重要とされている。教育の質向上のためには、学習環境の整備や学習成果の点検・評価結果の教員へフィードバックなどがきちんに行われているかどうか本委員会を中心に PDCA サイクルでのチェック体制を構築してきた。これにより、教育の可視化を高めてきている。

前年度同様に、公益法人日本高等教育評価機構（以下「評価機構」）が求める大学評価基準に照らし合わせて、関係部署へ「改善のための進捗状況、及び活動記録」の提出を評価シート（以後、回答シート）への記入という形で依頼した。回収された回答シートの内容は、本委員会で精査し、必要がある場合は、再度当該部署へ修正の依頼を行った。2019年度（一部2018年度）と2020年度の回答シートの内容の審議に多くの時間を費やした。

今年度行った令和2年度の自己点検評価シートでは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する学科・学部も含めた大学全体の対応に関して、評価シートで回答を求めた。

加えて今年度は評価機構による認証評価受審の年であった。2021年10月19日、20日の2日間オンライン実施調査が行われた。自己点検評価書の作成・エビデンス資料の収集等は、「認証評価対応ワーキンググループ(WG)」で行われたが、折に触れて本委員会のメンバーと共有しており、助言も行った。

2021年4月

報告事項

1 2019年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況

委員長 未回収の回答シートに関しては、引き続き提出を依頼して回収につなげる予定である。

2 その他

委員長 認証評価対応WGの活動について、認証評価受審用に提出する「自己評価報告書」のWG内での読み合せを継続している。

審議事項

1 回答シートの内容への委員からの意見・指摘

(a) 2019年度に対する回答シート

●国際交流センター

委員長 2020年9月に提出してあった活動報告について、本委員会の意見をセンターへ伝え、報告内容について再検討してもらい再提出をしていただいた。海外研修プログラムの多様化については「カナダでの研修プログラムは未だ実績がない」という課題について追加で記載をしてもらった。留学制度の実施については、今後の対応策につ

いて具体的な記載に修正してもらった。

委員 回答シートの進捗状況を示す段階が「すべて B (対応中)」という標記に変更となったが、本来はもう少し多様な評価がありえるのではないか。

委員 今回シートはコロナ禍以前の対応だが、留学制度の実施項目にコロナ関連の記載があるので確認してほしい。また、今後は、2020 年度の報告書について別途、コロナ対応についての項目を追加するべきだと思う。

委員長 2020 年度の報告シートにはコロナ対応を追加したい。

委員 海外研修プログラムの対応内容にコースが羅列されているが、本来はここに記載するのは、「応募者の少ないプログラムの整理」「研修先の見直し」「参加者アンケートの分析」などの課題を羅列し、評価すべきだと思う。

課題の例：研修先の見直し（語学研修以外のプログラムの充実）

研修内容の精査

研修希望人数と、研修先の適正化

●教務部長

委員 課題対応シート評価のばらつきが少ない点については再度確認されてはどうか。

委員長 学習支援制度についてのシートについては、問題点の表現にやや問題があるので訂正をしたい。

委員 2019 年度に退学者対策として睡眠カウンセラーの配置を検討し予算申請し、2020 年度に配置したことを記載してはどうか。また、基礎学力向上のためのエドリルの導入も 2019 年に試験運用し、2020 年度に全面導入につなげたことの記載も追加した方がよいと思う。

委員長 レポート・卒論の剽窃対応に関するシートについても、問題点の文章表現にやや問題があるので訂正をしたい。

委員 レポートフォーマットの統一は困難なので、大学としての統一ではなく学科内の統一とすべきであること、タスクフォースの立ち上げなどが必要である。日頃の授業の中で、剽窃はしてはいけないという指導をしていくことの重要性について課題とすべきである。

授業時間の確保について

委員 学生アンケートでは、授業時間が長くなる教員については守られてないと回答するが、授業を早上がりする教員については時間が守られていると回答する場合があると聞いている。項目を分けて確認するなど、工夫をしないと実態と回答シートの内容に乖離が出るのではないかと思う。

委員 評価の A と B の中間的な評価が必要ではないか、現状だと少しでも取り組み始めると B となり達成するまでは A にならないので、B が多くなってしまう傾向にある。

次年度以降についての評価を工夫してはどうか。

(b) 2018 年度の回答シート

●メディアコミュニケーション学部長

委員長 本日確認できなかった資料については、各自で一読いただき、気がついたことが有れば、メーリングリストにて知らせていただきたい。

2 「自己点検・評価委員会の平成 28 年度「答申」に基づく改善依頼事項および活動報告について」の 2020 年度に関する依頼内容

委員長 2020 年度の報告シートを作成して、各部門に回答記入を得たいと考えている。

その際には、B 評価が多くなってしまふことへの対応、コロナ対応を踏まえた内容にて評価シートとしたい。共通シートとその他各学科で独自に対応していることなどを別シートで出してもらふことを考えている。シートを作ってみて、次回の委員会にて確認し意見を踏まえて修正の上、学長より各部門へ回答してもらふように手配したい。

2021 年 6 月

1 報告事項

(a) 2019 年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況

委員長 回収したシートに令和 3 年度の評価がされていなかったもので、再度対応を依頼する必要がある。

●修正依頼 国際交流センターほか

委員長 前回の議事に基づき修正依頼はしている状況ではあるが、国際室が閉鎖しているため、現時点では提出に至っていない。また、教務部長の修正については、口頭では依頼済となっている。

2 その他

今年度受審予定の認証評価の準備の現状と今後について報告があった。

審議事項

1 回答シートの内容への委員からの意見・指摘

(a) 2019 年度に対する回答シート

●学生部長

委員 多目的トイレの増設については、1 階にしか設置されておらず授業 10 分の休みだと、車椅子利用の学生にとっては間に合わないことも実際に出ていることを踏まえ、B 棟 7 階棟への増設は必要と考えている。

委員 多目的トイレの清掃が行き届いてない(虫がいたなど)が散見されているので、ハード対策だけでなく、ソフト面も充実をしてほしい。

委員 発達障害の学生に対応できるような専門のスタッフを配置する必要がある。視覚障害、聴覚障害などへの対応(ノートテイク等)の手配ができてないことを踏まえていないため、そのあたりについての問題意識を学生部にも持ってほしい。学生部のマターのみという案件ではないかもしれないが、学生部長から発議があれば大学全体としての取り組みにもつながっていくのではないかと思う。

委員 学食など学生の食事の場所については、コロナ前にほとんどの対応が終了していたが、実際の稼働となる令和2年度にコロナ禍となり、現在は椅子などを間引きして利用している。自販機については、同様にコロナ禍もあり乾き物が中止になっているが、長期休暇期間での納品頻度について調整できる余地がないか。委員(事務局)が次の業者との打合せ時に確認することとなった。

委員長 2017年度の答申より、学生部へ要求し禁止しているにも関わらずバイク通勤学生がいる件については、学生部としては、現状の対応を是として、これ以上厳しい内容での対応は行わない趣旨の回答となった。

委員 前任校での対応について報告があった。車やバイク通学は禁止、車は許可制として一部認められていたが相乗りは禁止、違反者には許可の一定期間停止などの処置をしていた。

委員 違反バイクについて張り紙を提示するなどの対応くらいは行った方がよいのではないかと思う。

委員 検討した結果として現状の注意喚起継続となったことが、DとEという書き方だと分かりづらいと思う。

2 「自己点検・評価委員会の平成28年度「答申」に基づく改善依頼事項 および活動報告について」の 2020年度に関する依頼内容

委員長 コロナ禍となった2020年度の回答シートを作って、学科長等からの報告を得るようにしたいと考えている。その際の回答シートの案について、添付資料のとおり説明があった。前回の委員会にて、Bの評価事項を細かくするべきとの意見があったことを踏まえて評価項目を変更したことを説明した。

適切な入学者数の確保、問題のある学生への対応はカットして、代わりにコロナ対応についての評価項目を追加した。このあとは、学科長へ配付し、回収した内容を確認の上で、学部長へ配付して学部意見をもとめてもらうこととした。

委員 レポートの質向上については、学科でも指導を継続する必要がある、基礎教養でのアカスキによるレポート指導だけに終わらず、学科での指導と相互補完しながら進めていけるようにしてほしい。

委員長 学科長だけで評価を終えず、特にレポート指導については学科会議などを通じて、共有してほしいことをお伝えしたい。

委員 コロナ対応については、遠隔授業の質に問題を感じている。遠隔授業の質の向上は重要な項目となりうるため、コロナ対応は、「対面授業の感染予防」という側面と「遠隔授業の質向上」の側面があるので回答は2項目に分けた方がよいのではないか。

委員 対面授業の工夫などについて回答できる項目があれば参考になるのではないか。

委員 基礎教養では、オンラインでのグループワークなどよい事例がたくさん見受けられるので、紹介できるとよいと思う。

2021年7月

報告事項

1 2019年度の答申、活動報告回答シートの回収状況

- 修正文の回収 国際交流センター
- 修正の依頼 学生部長、教務部長

委員長 自己点検・評価委員会の意見を添えて各部長へ回答シートの内容修正の依頼をおこなった。

審議事項

1 回答シート内容の修正文の内容への委員からの意見・指摘

(a) 2019年度に対する回答シート

● 国際交流センター

委員長より、国際交流センターから提出された活動報告に関して説明があった。前回のものからよく改善されているとの意見があり、審議の結果承認された。

2 2020年度用回答シート等の内容・フォーマットの最終確認

(a) 依頼文に関して 学長代行、自己点検・評価委員会

委員 依頼文(案)の内容に関して、提示されたもので問題ないと思う。

委員長 副学長の確認後、依頼文と回答シートを関係部署に提出する予定である。

(b) 学科長用回答シート

委員長 前年度のものから「B評価の細分化」、「5.新型コロナウイルス感染症蔓延への対応の追加」、「注意書きを2件追加」以上3点を修正した。

委員 注2の「A達成の選択は避けてください」は文言を変えたほうが良いのではと思う。審議の結果「完全に達成した場合を除いて～」という表現へ変更することとなった。

(c) 法人本部用回答シート

委員長 昨年度のシートから B 評価を、B-、B、B+と 3 段階に進捗状況を示すように細分化したものであり、副学長、及び自己点検・評価委員会からの依頼文を添えて提出予定である。

3 実施日と提出期限

委員長 副学長の確認結果次第であるが、可能であれば今週中、遅くとも来週の早い段階で依頼文と回答シートを送りたい。また、審議の結果、回答シート提出締め切りは、9 月 30 日(木)にすることで決定した。

2021 年 10 月

報告事項

1 認証評価受審に関して

委員（事務局）より、10 月 19 日(火)と 20 日(水)に実施される認証評価に関し、これまでの対応状況と、今後の流れについて説明があった。11 日(月)に評価機構より「面談における質問事項」が届く予定であり、その質問内容を受け、事前に回答を準備する予定である旨、報告があった。

2 答申、活動記録の回答シートの回収状況

●修正文の回収 2019 年度学生委員会回答シート

●2020 年度の回答シートの回収状況

回収済み

- ・教務委員会
- ・学生委員会
- ・キャリアセンター
- ・国際交流センター運営委員会
- ・法人本部
- ・基礎教養・教養教育センター運営委員会
- ・IR 推進委員会
- ・図書館
- ・人間心理学科
- ・経営社会学科
- ・現代社会学科
- ・マス・コミュニケーション学科
- ・情報文化学科

- ・こどもコミュニケーション学科
- 未回収 副学長
- 依頼予定 学長

審議事項

1 回答シートの内容への委員からの意見・指摘

(a) 2019年度に対する回答シート

●学生部長

多様な学生へ対応する仕組み作り

委員（事務局） 段差の解消はキャンパスリニューアルで対応済みである。

委員 退学者対策検討会で議論している内容であるが、ノートテイク等所謂ソフト面の支援の充実、また、発達障害のある学生への対応について、教職員が相談できる専門スタッフを配置、以上2点に関し、回答シートへ反映させなくてよいのか。

委員長 令和2年度の同シートは年度の修正が必要であるため、再度学生部長に確認する。多目的トイレに関しては、増設を進めていきたいとなっている。多様な学生への学習の仕組みづくりに関しては、学生部の掌握事項の範囲を超えていると回答されている。ノートテイクは2年度版へ反映されている。

委員 内容によっては一つの委員会だけではなく、多くの委員会で協力し、大学全体で検討していく必要があるのでは。まず副学長へお願いとするのが良いと思う。

(b) 2020年度に対する回答シート

活動報告 新型コロナウイルス感染症蔓延への対応

委員 前例のないことへの対応であるが、国の指針に従っているのであれば、評価はAで良いと思う。

委員 職域接種は令和3年度の対応なので、次年度の評価シートに書くことになると思う。

(a) 2020年度に対する回答シート

●教務部長

学習支援制度（基礎学力の低い学生への対応）

委員 新型コロナウイルス感染症への対応は、ゼロベースで始まったものであり、B-からB+になるのではなく、Bが妥当なのは。また、対面は再開し始めているが、学生はコロナと関係なくオンライン受講を選択することもあり、そのような学生への扱いも不透明なところがある。

委員長 自己点検・評価委員会として、オンライン授業で使用する機材の購入をお願いしたが、特に返答はなかった。

委員（事務局） 教務部で文科省の補助金も使い、教室の機材を準備する予定である。

委員長 機材の購入に関して教務部長にフィードバックする。

委員 ハイブリッドで対面を取り入れているが、学生があまり来ていない。学生は周りにつられる傾向があるので、偶数奇数で分けるという方法を変える必要があるのでは。教員の中には、対面授業の方が効果は高いと感じている者もいる。これからは、いかに学生をキャンパスに戻すのかという段階にきていると思う。

委員長 教務部長の許可を得て全対面授業をやっているものもある。

委員 許可を得る仕組みがもう少し周知され、簡易化されると良い。

レポート、卒業論文の大学としての統一ルールの設定、及び盗用チェックの整備

委員 教員の認識状況をアンケートで把握し、剽窃等への強力な対応が必要だと思う。

成績評価の厳格化、学科間の GPA 格差、授業時間の確保

委員 授業時間の確保が出来ているのが前提になるのでは。

委員長 今はオンラインのため、実態の把握が難しいところがある。

(2) その他

委員長 次回は学科ごとのシートを見ていく。事前に 6 学科分のシートをメールでリストへ送るので、気づいた点を教えてほしい。修正後、学部長にお渡ししたい。

メール審議

委員 現代社会学科の回答シートの内容に関して意見が出され、学科長に修正依頼を行った。

委員 6 学科の回答シートに関して全体的に、B を 3 段階に分けたことにより、課題の進捗状況が可視化して表現できるようになった印象である。

委員 経営社会学科長より、「新型コロナウイルス感染確率が高まることが懸念される。一方で、長引くオンライン授業によって、水面下で精神的な病に侵され、体調に異常をきたしている学生が少なからず存在している。早急に学科としての対応を図るべきである。」との指摘がなされているが、これは全学科の問題だと思う。他方、むしろオンライン化の充実を目指している学科もあり、それも一つの方法だと思うが、その場合、上記で指摘された問題へのなんらかの対応を取る必要があると思う。

委員 人間心理学科の回答シート対応内容で「障害を抱える学生の対応」があったが、「特別支援委員会（仮称）」を立ち上げる予定である。

2021 年 12 月

報告事項

1 認証評価受審に対する対応

内部質保証委員会の新設に関して

委員（事務局） 認証評価に実地視察において、①内部質保証に関する全学的な方針を示す資料がない、②内部質保証のための組織、及び責任体制を示す組織図の資料が無い、以上 2 点の指摘を受けた。これらを明確化するために規程を 2 つ新規制定することとなったとの報告があった。

2 両学部長への回答シート送付

両学部長への回答シート送付

委員長 両学部長へ 3 学科長の回答シートを送付し、学部長としての回答をお願いした。その回答シートの中には経営社会学科長から「オンライン授業によって精神的な病になった学生へ、学科として対応したい」とあったが、これは全学的な対応が必要なのではないかという意見を委員よりいただいた。人間心理学科の回答シートでは、「障害を抱える学生への支援」が 2 年前にあげられており、それに対し、特別支援委員会(仮称)を立ち上げる予定であることを記載した方がよいのでは、という意見もあった。これらは自己点検・評価委員会からの意見ということで、両学部長にお伝えしている。

3 その他

内部質保証委員会（仮称）設立に関する委員からの意見

委員（事務局） PDCA 概念図（案）について規程（案）と合わせて、修正すべき点の指摘があった。指摘点について、副学長に確認の上で 12 月教授会提出時まで改善し、提出することとなった。

審議事項

2 2020 年度回答シートの内容への委員からの意見・指摘

●法人本部

経営の規律と誠実性・財政基盤と収支

委員 特に問題ないように思う。

委員 評価のところで B が並んでいるので、差をつけると良いのでは。

委員 税額控除は実績を積み上げている途中なので、全部 B というのはそういうことだと思う。

●就職課

留学生就職支援

委員 この就職支援のシートに限らないが、現状の課題は短期的なものなのか、長期的なものか。短期的なものが多い気がする。課題がもう少し中長期的なものだと良いのではないのかと思う。

委員長 今後の対応策として数値目標が出せるのか、就職課に聞いてみます。

就職ガイダンス(集団対応)とキャリア・カウンセリング(個の対応)

委員 よく頑張っていると思う。どのように学生にやる気を出させるのか、我々教員も悩んでいるところである。

就職試験対策(エントリーシート作成支援・筆記試験対策・面接対策等)

委員 就職課の苦勞がよくわかる。やる気にならない学生をどのように支援するか、教員も悩んでいるところである。

資格取得支援

委員 特に気になる点はない。具体的な目標が立っているのでいいと思う。面談など頑張っていると思うので、その実績を具体的な数字で書かれると良いと思う。

委員長 せっかくここまでできているので、細かな数字を入れてほしいとお願いします。

●基礎教養・教養教育センター運営委員会

3つのポリシーに基づく教育の質担保

委員 ナンバリングは問題ない、履修者数も少なくしている。

委員 特に問題ないと思います。

●IR推進委員会

メール審議にする。

2022年2月

報告事項

1 認証評価受審関連

委員(事務局) 年末に評価報告書案が届き、それに対して本学から意見の申し立てをした。その後、最終的な公表意見として、評価機構より3点の指摘を受けている。①経営社会学科の入学者数、②保健室に看護師資格の有資格者の配置、③事務職員の承認昇格についての基準及び手続き、以上が指摘された事項である。今回は優れている点を多くいただく結果となったので、その点は良かったのではないかと思う。

2 その他

委員(事務局) 現委員長は答申を最初に作成し、それに基づいた自己点検シートになっている。新体制のスタート時に現在使用しているものをそのまま使ってしまうとおかしいのでは。新委員長に新たな骨組みを作ってもらえるのはどうか。

委員長 また 7 年後の認証評価に向けて、回答シートのようなものを継続的に活用し、エビデンスとするのが良いのではないか。そして、その結果を先般決定した内部質保証委員会に提出する必要がある。

審議事項

1 回答シートの内容への委員からの意見・指摘

(a) 2020 年度に対する回答シート

●社会学部長

委員 ディプロマ・ポリシーについてあまり触れられていないのではないか。学部として何が最終目標で、どこを目指しているのかあやふやになってきているのではないか。学科として何に取り組んでいるのか、詳しく記載しても良いのではないか。

委員(事務局) 3つのポリシーに基づく自己点検をするように文科省から言われているので、今後継続していく必要がある。

委員長 ディプロマ・ポリシーの最終目標が現在は「卒業論文を書くことで達成される」となっている以上、卒業研究を外すことはできない。しかし、これから先も全学生に卒業論文を書くことを必修とすることが、現実的に妥当かどうか議論する必要があるのではないか。

委員(事務局) 各シラバスにおいて、到達目標とディプロマ・ポリシーのどこに関連があるか記載している大学もある。今後そのような記載が必須になるかもしれないので、シラバスを書くときにディプロマ・ポリシーを意識した書き方が必要なのではないか。

●メディアコミュニケーション学部長

委員 レポートや成績評価について、指導方法の確立や教員間の意識共有等、課題が多くあると認識している。専門分野により卒業論文の指導方法が異なるのは承知しているが、既に達成している心理学科の方法をFDで積極的に共有し、全学のレベルアップに繋がると良いと思う。

委員 9ページに記載されている「学科教育の質を向上させる取り組み」の課題でマス・コミュニケーション学科だけ抜けているのが気になった。

委員長 マス・コミュニケーション学科の回答シートを確認し、マス・コミュニケーション学科だけなかった場合、マス・コミュニケーション学科長とメディアコミュニケーション学部長に加筆が可能かどうか確認をしてみます。

●副学長

委員 副学長に職務が集中しすぎているのが気になっている。大学運営としてもリスクが高い。

委員長 この件に関しては、自己点検・評価委員会としてコメントを出したい。

当日欠席の委員のコメント

●学科間での差について

学部単位で統一性や共通した目標、ルールを持つのは難しいと思う。本学は学科の独自性が非常に強く、カリキュラムや人事も学科が行っており、学部で管理はしていない。他大学の場合、学科の人事でも他学科からも委員が入ってくる場合が多く、ある種の監視機構が備わっていることが多い。同一学部であるからと言って必ずしも同一化を目指すべきという意見ではないが、議論しておく必要は感じる。

●レポートや成績評価への教員間の意識共有や指導方法の確立について

卒業研究・卒業論文の水準を高く保つのは、非常な努力が必要であり簡単ではないが、卒論の水準はその学科の研究・教育のレベルを表すと信じている。経営的に強い大学のためには、レベルの高い学生を如何に多く集められるかが重要で、そのためには優秀な教員を集め、レベルの高い教育・研究を行ってもらう事が必要だと考える。

●副学長について

本学は特定の人に複数の役職を割り当てるのが普通になっており、これについては緩和措置が必要だと思う。改善策としては、担当科目に非常勤講師を充てることや、良い人材を確保することを前提として、複数の副学長を設けるという案も考えられる。そのためにも、優秀な人材が「応募したい」と思える大学を作る必要性がある。

2022年3月

メール審議

1 学科教育の質を向上させる取り組み

2月の委員会でメディアコミュニケーション学部長の回答シート「学科教育の質を向上させる取り組み」の課題でマス・コミュニケーション学科長の回答シートに加筆していただき、それを基にメディアコミュニケーション学部長の回答シートにも加筆していただいた。この2つの回答シートを審議した。

2 特定の教員に複数の役職が割り当てられる件

自己点検・評価委員会から大学経営会議に提出したいと考えている「労働環境改善と大学運営リスク削減についてのお願い」に関して、委員に提出の可否とお願い文の内容について審議をお願いした。結果、内容についてのコメントと提出の許可を得た。委員から「本学の女性管理職の少なさ」も課題であるとのコメントがあり、委員長がこの件についても加筆することとした。